6F-03

英文ライティングタスクにおける自己評価と教員評価導入の効果

中野美知子† 赤塚祐哉† 石井雄隆‡
早稲田大学† 早稲田大学本庄高等学院† 千葉大学‡

‡松田 健† 中澤 真†
阪南大学† 会津大学短期大学部†

要約

学習者が自分のライティングについて、評価基準を理解した上で、自分の英文を評価することを自己評価という。自己評価を導入することで、英文に対する意識が向上し、教員の評価の理由も理解するようになる（Oi、2021）。評価項目は、文法の正確さ（Grammatical Accuracy）、課題の要求にどの程度答えているか(Task Fulfillment), 文章の構造（Essay Structure）についてである。本研究では７回のオンライン授業に５回の自己評価と教員評価を導入し、事前・事後テストの成績に向上がみられるか？5 回のプロセスで、自己評価の行動に変化が現れるか？教員評価と自己評価の相関がどのようなものかについて分析し、英文ライティングにおける自己評価と教員評価の導入の是非について考察した。

実験の目的と手法

自己診断の実践例は 1980 年代から 2018 年代にかけて、101 例の実践研究が発表されている（Oi, 2021,p.34）. 自己診断では、評価基準が示されるため、学習目標が具体的に理解できるようになり、学習者の自律性（Learner Autonomy）が高まると報告されている（Black & William, 1998, Crooks, 1998, Black et al., 2003,2004, Haren & Winter, 2004, William, 2018, Zarei &Usefli, 2015 など）Harely &Winter によると、授業中に行うアセスメントには５つの重点項目がある。１）学習過程の情報は収集されるべき；２）学習者が学習に積極的になるにはフィードバックを与えるべき；３）学習目標を教師と学習者は共有すべき；４）学習者はアセスメントに加わるべき(自己診断の必要性)；５）学習者は受動的に情報を得るべき者ではなく、積極的な学習者（Active Learner）であるべきと指摘している。そこで、本研究では

１教師と学習者が assessment criteria を共有する
２学習者は自身のライティングを読み返し、教師と同じ評価ポイントを使って自分のライティングを評価していく。
３フィードバックとして、教師の評価を学習者に知ら
せ、反省を促す

という手続きを取ることにした。この手続きにより、教師も学習者も学習困難点をより具体的に知ることができ、その後の指導や教材開発に訳立てることができる。また、個々の学習者の個別の困難点を知ることで、教師は適切なフィードバックを与えることができるようになる。自己評価の導入により、ライティング力が向上するというデータも多く出ている（Merry ＆Reeling, 2000;Saito & Fujita, 2004；Sung et al, 2005）これは、判断力を働かせてライティングするので、目標に向けての発達段階を Self-monitor するようになり（Nicol & Macfarlane-Dick, 2006）、自律学習（self-regulated Learning）を育成していくと言われている（Len, Alwis & Schmidt、2010;Benson, 2001）。

自己（教師）評価項目

被検者と教員は同じ評価項目を扱った。以下に評価項目を掲載する。

Grammatical Accuracy(文法的正確さ)

- 主部と述部のある文で解答しているか
  - 文である場合 ２点
  - 文でない場合 ０点 【 】 点
- 文法ミスが５個以上 ０点
- 文法ミスが４個 １点
- 文法ミスが３個 ２点
- 文法ミスが２個 ３点
- 文法ミスが１個 ４点
- 文法ミスが無い ５点 （ ） 点

Task Fulfillment （課題充足度）例

- 日本人が外国人観光客の増大を恐れる理由が 3 つ以上書いてあり、具体的でわかりやすい ５点
- ２つ書いてあり、わかりやすい ３点
- 一つ書いてあり、わかりやすい ２点
- 的外れである ０点
- 評価点（ ）

Task Fulfillment（意見の説明）

あなたの意見には理由がかいてある
- ２個以上 ４点
- １個 ２点

＊理由には証拠や説明(自身の体験も含む)が具体的に示されている
- ２個以上 ４点
- １個 ２点

- 合計点 （ ）

Effects on Student Self-assessment and Teacher Assessment in English Writing Tasks
Michiko Nakano, Waseda University
Yutaka Ishii, Chiba University
Ken Matsuda, Hannan University
Yuya Akatsuka, Wseda University Honjo Senior High School
Makaoto Nakazawa, Aizu University

Copyright ©2022 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.

Task Fulfillment（反論）

- 本文にはあなたの反論を明示していますか?
- （　　）点
  - 反論には、二つの理由が書いてある。
    - 二つ書いてある　　４点
    - 一つ書いてある　　２点
    - なし　　０点
  - 理由には具体例や説明がついている
    - 二つとも具体例や説明がある　４点
    - 一つには具体例や説明がある　２点
    - なし　　０点

Task Fulfilment（反駁の例）

- 本文には反論に対する反駁が書いてありますか?　（　　）点
  - 二つの反論にはそれぞれ反駁が書いてある。2点
  - 一方しか書いてない　１点
- 反駁には理由や説明が書いてある。
  - 理由には具体例や説明がついている
    - 二つとも具体例や説明がある　４点
    - 一つには具体例や説明がある　２点
    - なし　　０点

Structure（例）

- エッセイの構造がはっきりしている（　　）点
  - 序論がある　　２点
  - 本文がある　　３点
  - 結論がある　　２点

実験結果と考察

事前テストと事後テストを比較してみる。事後テストの成績が向上していれば、授業手続きが擁護される。事前テストの平均点は **31.72（SD：7.79）で、事後テストの平均点は 35.37（SD：6.30）であった。**事前テストと事後テストを受講した生徒 65 名を対象に、その平均値の差を、対応ある t 検定で検討した。その結果、$t(64)=-5.32$, $p<.001$, $d=0.50$, 95%CI[−5.04, −2.29]で有意差があり、オンライン学習コンテンツを学習して、テストの得点が有意に伸びていることが分かった。2020 年にも同じ事前・事後テストを使っていた。授業手続きとしては自己評価と教師評価がなかったことを考え、2019 年の平均値と SD を見ると、事前の平均 23.59（SD：12.65）事後平均 25.72（SD:10.44）で t 検定でも平均値の有意差はなかった。このことから、自己評価と教師評価の導入は成果があったことが示唆される。

教師評価と自己評価の一致度

教師評価と学習者の評価の一致度は、積相関 r によって求められる。各評価項目ごとに結果をまとめる。

①主部と述部があるかについて

記述問題は英文の場合、主部だけで答えるのは正解にならない。文として、主部と述部が必要である。23 回同じ質問をして 18 回は教員評価と完全一致した。従って、この評価項目は、学習効果が高いといえる。

②文法ミスへの気づき

第 2 課では教員評価との相関は、-０.06, 0.04, 0.47, 0.09, -0.06, 0.04, 1.0, 0.26, 0.13 で、第 3 課では 0.37、0.06、0.23、0.27、0.34、0.4 と改善されている。5 課の意見文では相関は 0.28 であった。文法ミスに対して学習者自らが気づくことは大切であり、教員の私的数の 3 分の 1 しか気づいていない現状では、この評価項目は今後も継続していく必要がある。

③自分の主張に対して適切な説明や理由付けがあるか

第 6 課では教員評価と完全一致しており、6 回の訓練により、理由付けはよく学習できたといえる。

④反論の仕方

問題文により、反論の内容の難解度は変わってくるので、一様には言えないが、書き方は 3 課より学習しており、よいときは 3 課 0.28、4 課 0.22、5 課 0.33、6 課 0.24 で、劣等な相関でも 3 課-0.03、4 課 0.01 となっている。

⑤反駁の仕方

比較的良好なのは 3 課 0.3、4 課 0.27、5 課 0.22、6 課 0.17 で、劣等な相関でも 3 課 0.12、4 課 0.06 となっている。反論と反駁を比較すると返論の方が学習者が習得しにくいことが示唆され、指導にさらなる工夫が必要である。

本研究は　梅澤克之代表基盤（B）課題番号 19H01721 から研究助成を受けている。

参考文献

Benson, P. (2001). *Teaching and researching autonomy in language learning*. London, UK:Longman.

Black, P & William, D. (1998a). Assessment and classroom learning assessment in education: Principles. *Policy & Practice*. 5(1), 7-74.

Black, P & William, D. (1998b).Inside the black box: Raising standards through classroom assessment. *Phi Delta Kappan*. 80(2), 139-47.

Black, P., Harrison, C., Lee, C., Marshall, B., & William, D. (2003). *Assessment for Learning: putting it into practice*. Buckingham: Open University Press.

Black, P., Harrison, C., Lee, C., Marshall, B., & William, D. (2004). Working inside the black box: Assessment for learning in the classroom. *Phi Delta Kappan*. 86(1), 8-21.

Brrown, H. & Hudson, T. (1998). The alternatives in language assessment. *TESOL Quarterly*.32(4), 653-75.

Crooks, T. J. (1988). The impact of classroom evaluation practices on students. *Review of Educational Research*, 58(4), 39-71.

Harlen, W. & Winter, J. (2004). The development of assessment for learning: learning from the case of science and mathematics. *Language Testing*. 21(3), 390-408.

Lew, M.Alwis, W & Schmidt, H. (2010). Accuracy of students' selfassessment and their beliefs about its utility. *Assessment & Evaluation in Education in Higher Education*.　35(2), 135-156.

Nicol, D. & Macfarlane-Dick, D. (2006). Formative assessment ans self-regulated learning: A model and seven principles of good feedback practice. *Higher Education*, 31(2), 199-218.

Y. Oi. (2021).　*Efficacy of Student Assessment as Part of Writing Instruction for Japanese High School Students*, Unpublished Ph.D thesis, Waseda University.

Saito, H. & Fujita, T. (2004). Characteristics and user acceptance of peer rating in EFL writing classrooms. *Language Teaching Research*, 8(1), 31-54.

William, D. (2018). *Embedded formative assessment*. U.S: Solution Tree Press.

Zarei, A. & Uselfi, Z. (2015). The effect of assessment type on EFL learners' goal-orientation, *Journal of Language, Linguistics and Literature*, 1(4), 112-119.

Copyright ©2022 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.